

平成29年度第2回契約監視委員会議事録

1. 日 時： 平成30年1月29日（月） 13:30～15:30

2. 場 所： 国際農林水産業研究センター本館2階 特別会議室

3. 出席者： 柿内委員、北條委員、岡野委員、坂本委員

4. 審議案件

(1) 平成28年度【競争性のない随意契約】一覧（右欄：平成29年度契約実績（4月～12月））

(2) 平成29年度第1四半期～第3四半期における【競争性のない随意契約】一覧

(3) 平成28年度契約で【一者応札・一者応募】であった案件及び平成29年度の契約状況

(4) 平成29年度（第1四半期～第3四半期）契約で【一者応札・一者応募】であった案件

(5) 2年連続して【一者応札・一者応募】であった案件一覧

(6) 2年連続して一者応札・一者応募であった案件の点検表（第1四半期～第3四半期分）

(7) 平成29年度国立研究開発法人国際農林水産業研究センター調達等合理化計画にかかる自己評価（案）

(8) その他

・平成30年度契約監視委員会委員の委嘱について

5. 議事概要：

柿内委員を委員長とし、契約担当者から以下のとおり議題内容の説明があり、その審議が行われた。

(1) 平成28年度に【競争性のない随意契約】を行った19件の契約で、平成29年度4月から12月までに契約した同じ契約案件で【競争性のない随意契約】を行った件数は7件であった。

また、平成29年度4月から12月までに【競争性のない随意契約】は13件であったことの説明が行われ、審議し了承された。

(2) 平成28年度から2ヵ年連続して【一者応札・一者応募】となったものは、平成29年度4月から12月までの契約案件で1件であり、昨年度に一者応札であった1件が複数応札（2者）へと改善し、少額随契に移行（調達予定数量の減）したものが1件ある旨の説明が行われ、審議し了承された。

(3) 平成29年度第1四半期から第3四半期に実施した入札の結果、【一者応札・一者応募】となったものは16件であった。

また、今回の委員会では平成29年度4月から12月までの契約案件であったので、平成29年度【一者応札・一者応募】が前年度から増えたかどうかは次回の委員会で比較するとの説明が行われ、審議し了承された。

(4) 平成28年度から2ヵ年連続して【一者応札・一者応募】となったものは、平成29年度4月から12月までの案件で1件あり、一覧とフォローアップ票で説明が行われ、審議し了承された。

なお、審議の過程で次の意見があった。

- ① 4月から12月までに契約を行った6件の委研究託費で、研究評価が「B」にも関わらず委託研究を実施している課題が1件あるが何故かとの質問に対して、課題評価はAからDの4段階であり、B評価は「課題内容を概ね達成している」との評価であって、今年度も継続する課題であることから委託研究を実施しているとの説明があった。
 - ② 「法律顧問契約」において、現在も不適正経理事案が残っているのかという質問に対して、現在も不適正経理についてのアドバイスを受けており継続性が重要であるため引き続き契約を行ったとの説明があった。
 - ③ 「ソルガム種子」購入契約において、落札率が100%となっているのはどうしてかという質問に対して、多種大量のソルガム種子を取り扱える者は契約相手方しかないと、契約相手方からの見積をもつて予定価格としたため100%となったとの説明があった。
 - ④ 一者応札の「試薬（単価契約）」において、予定価格と契約金額に大きな差があるのはなぜかという質問に対して、予定価格は前年度の購入実績数に予定単価を掛けた総額が記入されている。これに対し、契約金額は単価契約の現在までに購入した金額が記入されているため、予定価格と契約金額に差があるとの説明があった。
- (5) 「平成29年度国立研究開発法人国際農林水産業研究センター調達等合理化計画にかかる自己評価」（案）について、平成29年4月から12月の実績で記入できる評価指標、業務実績及び自己評価に対する説明が行われ、審議し了承された。

なお、審議の過程で次の意見があった。

- ① 自己評価は、定量的な数値で表現して達成した度合いを記入した方がわかりやすいのではないかとの意見があった。
- (6) その他
- 事務局から現在の委員が平成30年2月1日で任期満了となるが、農林水産大臣の承認を得て平成30年2月2日から2年間委員に再任されたとの連絡がなされた。

以 上